

令和4年度 第1回「おおだ未来☆夢ランド」の提言から

令和4年6月16日（木）

【ねらい】

- 大田市の持つ多種多様な宝を未来の子育てや教育に活用していきたい。
- 大田の子どもたち一人ひとりに、多様な教育の受け皿・選択肢を創っていく。そのために、あらゆる人を巻き込み、あらゆるものを取り込み、新しい発想で、大田市教育の更なる魅力を創り出していきたい。

【意見・提言】

①「ゴッドハンズプロジェクト」の立ち上げ

- モノづくりの方々ところに子どもたちが弟子入りのように入っていく、地域の中で文化の伝承をしながら、子どもたちも自信を取り戻し、その中で教科の学びもしながら、学ぶ意味も取り戻していけるもの
- 対象は小学校5年生から中学3年生までで、不登校傾向にある子どもが参加できるような、ワクワクしたプロジェクトにしたい。学習は不登校になってしまうと空白状態になってしまう。学習空白をなくしインターンをしていくことで、実学的な学びを保障する、そして社会ともう一度接続されることが同時にかなえられるプロジェクトにしたい。

②「F組」の設置・・・不登校支援（岡崎市の中学校で実施している例）

- 校内のフリースクール、自由にF組で過ごし、また自学級に戻るシステム
- スクールソーシャルワーカーやカウンセラー、民生委員、特にNPOが入り、かつ連携して授業の仕組みができ、様々な面で子どもたちをサポートすることが重要

③地域（地域住民）を主体とした学校魅力化に

- 地域と共に考える、社会に開かれた教育課程
- 地域は学校からの協力依頼を待っている
（地域側からの提案は学校や教職員の負担増を招くと不安である）
- 学校が地域を頼ることの敷居を低くする必要
（「分からない・困っている」が言える関係作り）

④学校・教員の負担軽減

- 部活動の外部委託をすすめる
- 地域（地域住民）が学校・教員を助ける意欲を見せてほしい

⑤個人の指導力（経験）に頼らない仕組み作り

- 様々な事例（成功例・失敗例）を次世代に伝達していくためにシステム化し、チーム支援でスキルアップを図る

⑥予算の確保

- スクールコラボファンド
- ふるさと納税
- クラウドファンディング

⑦子どもたちに多様な経験・多様な選択肢を

- 自分たちが社会に必要だということを、周りの大人がどうやって気づかせていくか、そのプログラムをきちんと組み立てることが重要
- 子どもたちに選択肢はたくさんあるということを伝える
- 昔話や伝承の継続を・・・電子書籍化、図書館・子育て支援関係機関等との連携
- 地域と連携し大人と触れ合うイベントの開催を実施

⑧文化財の多様な活用を

- 福祉面での活用（障がい者・高齢者他）

⑨学力向上

- 大田市として「学力」をどうとらえるのが重要
- 効果的な ICT 機器の活用を・・・実践事例の収集、教員研修の充実